

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

SEPTEMBER 2016

vol.29

September						
S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

じょうこうじ 定光寺

所在地：瀬戸市定光寺町

交通：JR 中央線「定光寺」駅 東 約 1.5km

日本における「年代記」は、歴代の天皇代を追ってその年号の下に出来事を記した年表風の記録で、災害に関する記録が多く含まれている場合があります。歴史災害的にも着目されてきた史料です。『定光寺年代記』は、瀬戸市定光寺町の臨済宗定光寺に伝わる年代記で、弘安 10（1287）年から始まった記録は、当初は都中心の記録の写しといった内容でしたが、応永年間（1394～1427）の末頃から次第に地域の情報や記事が多くなり、文正元（1466）年頃以降からは、地域の情報が中心に記録されるようになって、その記録は延宝 4（1676）年に至っています。『定光寺年代記』には、こうした地域の情報として、地震を始め大雨や洪水、飢饉など様々な災害に関する記録も含まれています。

地震に関する記述を取り出してみると、まず文安 2（1445）年に大地震が発生した記録があり、宝徳元（1449）年には 4 月 10 日に大地震が発生し、4 月 12 日の地震では大地破裂、その後 11 月まで時々地震が続いた、と具体的な記録があります。

明応 7（1498）年の明応地震については、伊勢大湊で人民屋舎が流される被害があったと記されています（年代記では明応 6 年とあるが明応 7 年の誤りと考えられている）。



定光寺本堂（定光寺 HP より）

永正 7（1510）年 8 月 7 日の地震は、摂津・河内に大きな被害を与えた地震であったことが知られていましたが、年代記には定光寺でも仏殿などの堂舎・山門が「破敗」した記録が残っており、この地域でも被害が発生した地震であったことがわかります。また、天文 3（1534）年 6 月 21 日の地震は、他にあまり記録がなく、この地域で発生してきた地震を知る上で、貴重な記録となっています。

さらに、天正 13（1586）年の天正地震についても記載があり、定光寺の被害の記録はありませんが、甚目寺本堂や法性寺（あま市）、真清田神社（一宮市）の楼門・回廊その他の殿舎、興禅寺（津島市）などがことごとく倒壊したことが記録として残されています。

他に、慶長元（1596）年閏 7 月 12 日、寛文 2（1662）年 5 月朔日にも大地震の記録があります。

瀬戸市を含む尾張東部は、南海トラフ地震の被害想定でも県内では比較的揺れが小さく、地震災害に対する危険度がそれほど高くない地域という印象がありますが、過去には仏殿や山門が被害を受ける地震が発生していることが、こうした記録を紐解くことにより明らかになるのです。

定光寺にはみどころとして、徳川家康の 9 男で尾張徳川家の始祖・徳川義直公の廟所があり、また、境内からは名古屋駅周辺の高層ビル群を見渡すこともできます。秋には紅葉の名所にもなりますので、実際に足を運んでみて、年代記に残る地震の被害があった場所を実感してみるのもよいかもしれません。



◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していたりとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

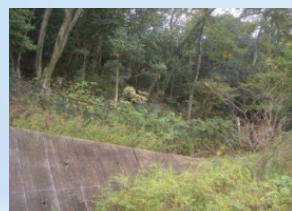
◆ 定光寺の周辺には…

● 広久手一八号窯跡

所在地：瀬戸市吉野町

交通：愛知環状鉄道「山口」駅 南東 約 1.7km

瀬戸市の基幹産業である窯業も地震の被害を受けています。瀬戸市史によれば、広久手一八号窯跡には地震によって生じた地滑りが



発掘によって確認されました（ただし現在では埋め戻されており、直接確認することはできません）。



● 鉢池（濃尾地震に関係する碑）

所在地：春日井市大泉寺町

交通：JR 中央線「神領」駅 北 約 2.5km

鉢池には改修記念碑や水神碑など、多数の碑が建立されています。この碑には、明治 24（1891）年濃尾地震によって、大泉寺新田の池が崩れたこと、地方税と国庫金の補助を受けて修復したことなどが記されています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ せともの祭

せともの祭は、江戸時代に磁器の製法を九州で学び、瀬戸に伝えた磁祖加藤民吉翁の遺徳をたたえる産業まつりで、9月の第2週に開催されます（平成 28 年は 9 月 10, 11 日）。昭和 7 年に初めて開催され、今年で 85 回目を迎えます。



愛知県の観光情報サイト
Aichi Now HP より

お祭り期間中には、若手作家による展示、伝統的工芸品「瀬戸染付焼」を“見る・買う・体験する”の 3 つを堪能できるイベント、B-1 グランプリにも登場した瀬戸焼そばの提供など、数多くの行事が開催されますが、なかでも瀬戸川沿いに約 200 軒のやきもの店が立ち並ぶ「せともの大販売市」は全国最大規模と言われ、毎年数十万人が訪れます。

さらに、祭初日の土曜日にはミスせともの発表披露会や、せともの祭花火打上があり、まつりの雰囲気に華を添えます。

9 月のあいちの花

平成 28 年 9 月のあいちの花はグロリオサです。グロリオサ



は、春に球根を植えて夏に花を楽しむ春植え球根タイプの花で、6 枚の花弁が炎のようなエキゾチックな形となるのが特徴であり、様々なアレンジメントに利用されています。

グロリオサの名前はギリシア語のグロリオサス（栄光ある・名誉ある）に由来します。和名はキツネユリで、花姿をキツネに見立てたものです。

● ブレイクタイム ●

♪ 来る福招き猫まつり

9 月前半はせともの祭で大いに盛り上がる瀬戸の街ですが、9 月後半には人もモノも街中招き猫でいっぱいになる、来る福招き猫まつりが開催されます（平成 28 年は 9 月 24, 25 日）。明治 30 年代に日本で初めて磁器による招き猫の量産を始め、100 年に及ぶ歴史を持つ瀬戸で、平成 8 年からこのまつりが始まりました。

日本招き猫 100 人展では、日本全国から公募で選ばれたアーティスト 100 人による創作招き猫が「日本招き猫大賞」をかけて競います。無料の招き猫メイクもあり、招き猫になりきって街中を散策することもできます。



愛知県の観光情報サイト
Aichi Now HP より

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 28 年 9 月）